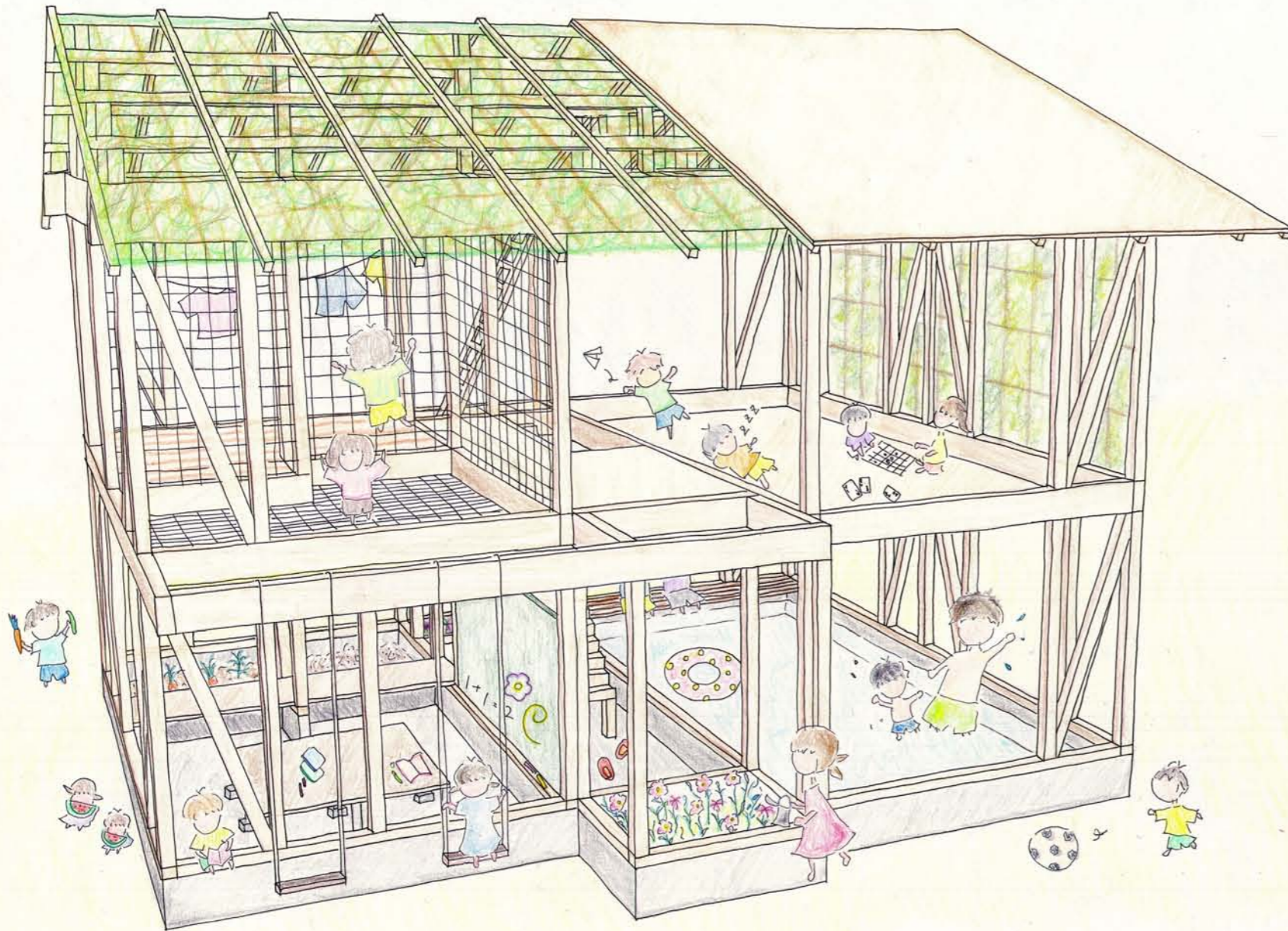


スケルトンコミュニケーション



concept

近年、高齢化が進み、それと共に空き家も増えている。空き家が多いと、放火による火事・火災や、地震・台風などの自然災害による倒壊、不審者の侵入や、景観の悪化など、たくさん問題がある。そこで、空き家の建つ敷地全体を空地と考え、それらをもっと有効的に使い、子供たちがのびのびと遊べる居場所にしたいと考えた。

まず、外壁をすべて取り払い、骨組だけの状態にしてみる。すると、根太や垂木が現れたり、基礎がむき出しになったり、床束や束石が残ったり。それらを使ったら今ある空間がもっと楽しくなるのではないだろうか。

それは、子供たちの遊び場だったり、勉強スペースだったり。畑や花を育てられるスペースになるかもしれない。もしかしたらみんなで、汚れたズボンやシャツを自分たちで洗濯して干して来るかもしれない。

こんな風に、今まで使い道もなく邪魔者に近い存在だった空き家も、子供たちの楽しみの場となり、新たににぎわいが生まれるだろう。



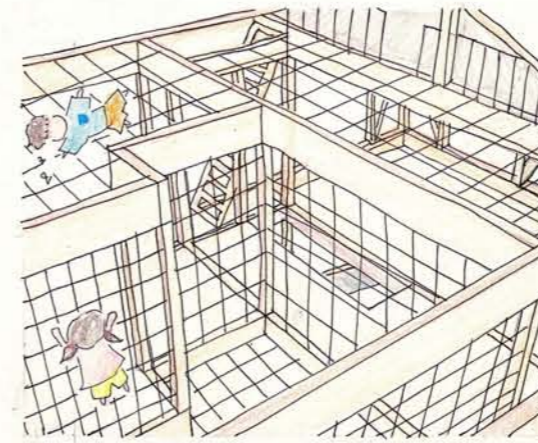
梁 床や屋根の荷重の受ける構造材。縦の境界線、高さを認識する、ものをかけたり、ぶらさげたり。



柱 垂直荷重を支える構造材。場の中心や境界をつくりだし、人の生活の拠り所となる存在。

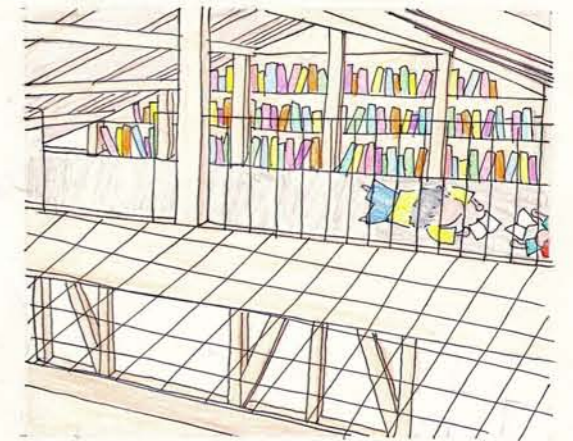


布基礎 土台を載せ、地盤の補強と整地をする。コンクリートという異素材感。腰掛け程度のゆるい境界線。



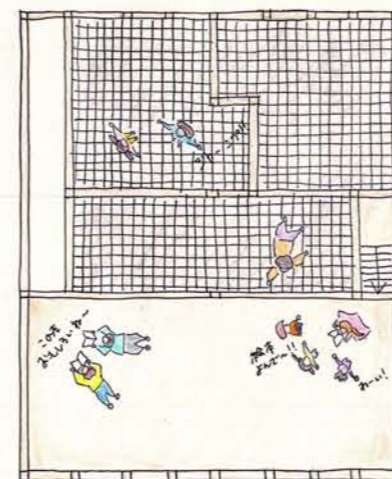
梁と梁の間にロープを張りめぐらしたらジャングルジムみたいに楽しい空間があらわれる。ハンモックをかければ昼寝ができるかもしれない。

屋根下の梁の厚みを利用したら本棚もできる。屋根裏の空間を利用したら、ロフトスペースもできる。

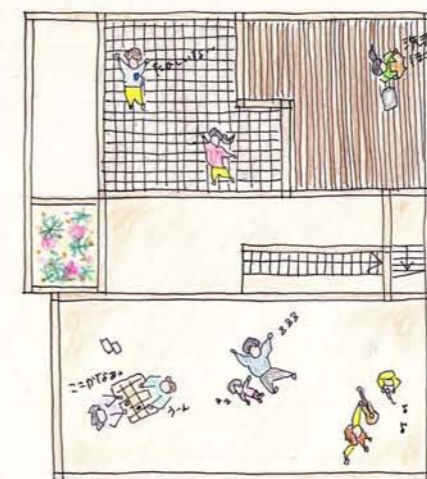


床束と束石を残し、その上に板を置いたらテーブルがあらわれた。その下にもぐりこんで遊ぶ子がいるかもしれない。

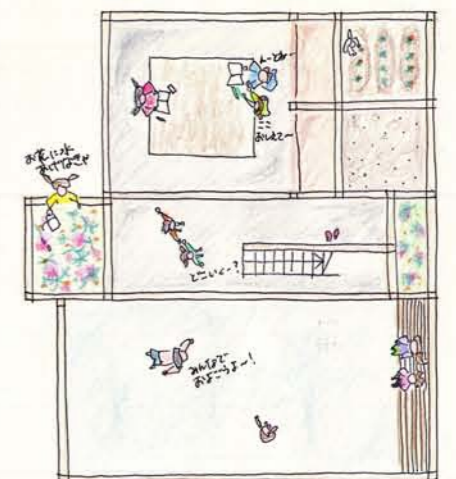
床根太を残したらベンチになったり、基礎がそのままプールになったり。階段下のスペースが下駄箱や飾り棚になるかもしれない。



小屋伏図 1:100



2階平面図 1:100



1階平面図 1:100